

津和野城(一本松城, 三本松城, 石蔭城)(国史跡, 百名城)(鹿足郡津和野町後田)

津和野城(つわのじょう)は日本の城。城跡は国の史跡に指定されている。

概要

津和野城は津和野盆地の南西部に横たわる標高 367 メートルの山上、島根県鹿足郡津和野町後田にある山城である。築城時から少なくとも室町時代後期(戦国時代)までは三本松城(もしくは一本松城)と呼ばれていた。尾根伝いに南にある出城の中荒城は、当城と併せて史跡指定されている。

江戸時代には津和野藩亀井氏の居城であったが、藩庁は急峻な山城を避け山麓に置かれた。

歴史

鎌倉時代

鎌倉時代、元寇の翌年の弘安 5 年(1283 年)吉見頼行は沿岸防備のため西石見地方の地頭としてこの地に赴任した。永仁 3 年(1295 年)より三本松城(津和野城の旧名)の築城を開始し正中元年(1324 年)完成した。以後、14 代にわたり吉見氏が居城とした。

戦国時代・江戸時代

吉見氏は戦国時代には当初、大内氏に属していたが、11 代当主正頼は天文 23 年(1554 年)に大内氏を滅ぼした陶晴賢と 100 日以上に及ぶ籠城戦が生じる(三本松城の戦い)。その後、吉見氏は防長経略を経て毛利氏の配下となり、引き続き津和野城を居城とした。その後、慶長 5 年(1600 年)関ヶ原の戦いにおいて毛利輝元を総大将とする西軍が敗れ、毛利氏が防長 2 か国に押し込められたと、吉見氏も津和野を退去して萩に移住した。

代わって東軍に属した坂崎直盛が 3 万石(後に加増され 4 万 3468 石)で入城し、城の大改修を行った。大手の位置を吉見氏時代の搦手側に改め、出丸や織部丸を築いた。この時、二の丸に天守を築いた。直盛は元和 2 年(1616 年)に千姫事件で自害(または家臣に殺されたとも)し、坂崎氏は改易となった。

元和 3 年(1617 年)因幡国鹿野藩より亀井政矩が 4 万 3 千石で入城。以後、明治維新まで 11 代にわたり亀井氏の居城となった。貞享 3 年(1686 年)城は落雷にあい火災が発生した。この際に天守も焼失し、以後再建されることはなかった。

近現代

明治 4 年(1871 年)廃藩置県により廃城となり、翌年、山上の城は解体された。

昭和 17 年(1942 年)10 月 14 日、国の史跡に指定される。昭和 47 年(1972 年)と平成 19 年(2007 年)には、史跡の追加指定が行われて指定範囲が拡大した。

昭和 46 年(1971 年)には山上への観光リフトが完成した。また、平成 18 年(2006 年)4 月 6 日、日本 100 名城(66 番)に選定された。

遺構

明治時代に廃城となり、山上には石垣や堀(堀切、堅堀、連続堅堀など)が残る。山麓には馬場先櫓(島根県指定文化財)、物見櫓が現存している。また、藩主屋敷は島根県立津和野高等学校になり、庭園は嘉楽園となった。

Wikipedia による

「津和野城」

晩秋、津和野盆地は雲海に覆われる。その上に津和野城址の石垣が浮かぶ。

津和野三本松城(別名・蔭城、棗吾=共につわぶき、山蔭の意)は海拔 367M にある全国第 2 位の高さを誇る山城である。津和野藩 4 万 3 千石の城下町、津和野(島根県鹿足郡津和野町)の象徴である。今日ではリフトと徒歩を含め 10 分余りで、城址の中で最も高い世間台に登ることができ、眼下に城下が一望できる。町を縦横にめぐらした側溝を泳ぐ鯉の群や、弥栄神社の鷺舞、哲学者・西周、文豪・森鷗外の学んだ

藩校など山陰の小京都の町並みと共に、津和野城址は坂崎市時代に築かれた石垣、石階が往時のまま残り、本丸5907平方メートル、200M離れた出丸(織部丸ともいう)570.9平方メートルとその規模は雄大である。

津和野城主は、吉見氏14代319年間、坂崎氏1代16年間、亀井氏11代255年間の居城であった。

築城は吉見氏にはじまる。弘安5年(1282)幕府に命を受けた吉見頼行が蒙古(元軍)の再襲来に備え能登(石川県)より、津和野木部に入部した。工事は永仁3年(1295)頃より、子の頼直時代、正中元年(1324)まで30年の歳月を経て、大方の完成を見た。当初は一本松城と称した。津和野城は11代吉見正頼の時、最大の危機を迎えた。正頼の夫人は有力な守護大名、大内義隆の姉、大宮姫であり、正頼と義隆は義兄弟である。義隆の家臣、陶晴賢が反逆、義隆は義兄の正頼を頼り、海路より三本松城をめざそうとしたともいわれるが、荒波のため、長門大寧寺で自刃した。天文23年(1554)、陶軍は津和野城を包囲した。4月17日から8月2日の和睦まで104日という、まれにみる長期の籠城戦であった。この戦を機に吉見は長男隆元の娘を迎えた。広瀬の長男吉見元頼は、隆元の弟、吉川元春の娘を夫人とした。13代元頼は文禄の役に、14代広行は慶長の役で各々朝鮮に出兵おしているが、広行は関ヶ原の役で西軍に味方し、敗れて萩、毛利を頼り、津和野城を退去。ここに吉見の政治は終わった。

慶長5年(1600)、備前(岡山)富山2万4千石、宇喜多忠家の子、坂崎出羽守直盛が津和野城主となった。直盛は直ちに出丸(織部丸)を築き、本丸と共に石垣で城を強化、鉄砲戦に備えた。



史跡 津和野城跡

津和野城は関ヶ原合戦（1600年）の戦功により津和野藩主として入部した坂崎出羽守（1601—1616年）によって山頂に高い石垣を積んで築かれた近世山城である。石垣の石材は玢岩と石英閃緑岩で、約3km北方の寺田地区や枳ヶ峠の青野山トンネル付近で採石し運び上げたものである。



特に、天守台の石垣は壮麗な石英閃緑岩で築かれ、大きい石は2トンを超えるものもある。坂崎氏は有名な千姫事件で1616年に断絶となり、亀井家二代亀井政矩が津和野藩主として入城した。それから約250年間、亀井氏が11代にわたって居城とした。

その後、1873年（明治6年）の「城郭存廃決定（廃城令）」によって建物は解体されたが、急峻な山頂に築かれた豪壮な石垣が当時を偲ばせる。

